

Declaration of Miyama City Zero-Waste Action Plans みやま市ゼロ・ウェイスト宣言 行動計画

美しく豊かなみやま市を未来の子どもたちに残すため、できることから始めよう。

《行動1》

次世代を担う子どもたちへの教育の充実

- ・環境に関心を持ち、理解を深めよう。
- ・“Think Globally, Act Locally”
(地球規模で考え、足元から行動しよう。)
- ・環境学習の場として、
バイオマスセンター・ル
フランを活用しよう。



《行動2》

ライフスタイルのイノベーションや2Rに よる、ごみを発生させない仕組みづくり

- ・リデュース(減らす:Reduce)、
リユース(繰り返し使う:Reuse)
の2Rでごみの発生量を減らし、
どうしても不要となったものは、
きちんと分別することが重要で
す。



《行動3》

生ごみの資源化の推進と ごみ処理費用の削減の両立

- ・生ごみを、バイオマスセンターで電
力・温水と液体肥料に変換し、エネ
ルギーと肥料の地産地消を実現。
- ・燃やすごみを4割減、ごみ処理経費
の削減と地球温暖化防止に効果。
- ・生ごみの資源化を推進
しよう。



《行動4》

市民一人ひとりが主体となった エネルギーの地産地消の推進

- ・市が出資している「みやまスマートエ
ネルギー(株)」がエネルギーの地産地
消の実現を目指しています。
- ・太陽光発電、蓄電
池、電気自動車の導
入やスマートエネ
ルギーへの加入を検討
しよう。



《行動5》

市民・事業者・行政が 一体となった取り組みの推進

- ・「資源循環型社会」の実現に向けた
新電力事業やバイオマス事業など、よ
り一層の住民との協働が求められて
います。
- ・環境保全活動や資源循環
活動などの実施に協力し、
応援しよう。



《行動6》

ごみの発生を抑制する 法制度整備に向けた働きかけ

- ・令和2年7月にレジ袋有料化義務化
がスタートし、法制度の面から、ごみ
発生抑制に取り組んでいます。
- ・国に対して、法制度整
備を求めています。



《行動7》

ゼロ・ウェイストの輪を 日本に世界に広げる取り組み

- ・ゼロ・ウェイスト宣言及び環境基本計
画を実行。先進自治体を目指し、宣
言・計画を積極的に英訳し、SNSで世
界に発信します。
- ・情報発信で、「循環による
まちづくり」の輪が広がる
社会を目指します。



第2次みやま市環境基本計画(概要版)
令和3(2021)年3月

【問い合わせ先】

みやま市 環境経済部 環境衛生課
〒835-8601 福岡県みやま市瀬高町小川5番地
TEL:0944-64-1521/FAX:0944-64-1546
e-mail:kankyoku@city.miyama.lg.jp

The Second Miyama City Environmental Basic Plan 第2次みやま市環境基本計画

未来へつながる 持続可能なまちづくり
～資源循環一人ひとりの心がけ～

[2020~2029]



計画の目的

本市は平成22(2010)年3月にみやま市環境基本計画を策定し、各種施策の総合的かつ計画的な推進に努めてきました。具体的には、循環型社会の実現をめざし、バイオマス施設の建設や再生可能エネルギーの推進を行ってまいりました。

こうした状況を踏まえ、「第2次みやま市環境基本計画」では、目指す環境像を「未来へつながる 持続可能なまちづくり」とし、昨年市議会で採択された「みやま市 資源循環のまち宣言(ゼロ・ウェイスト宣言)」を具体化し、2050年までに本市の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指し、市民や事業者の皆様と共に、脱炭素社会を構築することを大きな柱と位置付けました。計画では5つの目標を立て、それぞれの取り組みを行うことで、環境像の実現を目指すことを示しています。

目標
1

Toward the Realization of a Low-Carbon Society

低炭素社会の実現に向けた取り組み

再生可能エネルギーの活用を推進するとともに、身近なところから温室効果ガスを減らす暮らしを心がけ、低炭素社会ゼロカーボンシティのまちを目指します。

取り組み

- ・地球温暖化対策実行計画の策定
- ・再生可能エネルギーの普及
- ・エネルギーの地産地消
- ・クールチョイスの実践



【環境像】

未来へつながる 持続可能なまちづくり
～資源循環一人ひとりの心がけ～

豊かな自然を有するみやま市を、よりよい姿で子孫に残していくため、今このまちに住む私たちの「環境像」を掲げます。

目標
4

Passing Down the Rich Natural Environment to the Future

豊かな自然環境を未来へつなぐ

豊かな自然からの恵みを、将来の世代まで享受できるように、生物多様性の重要性を認識し、自然と共生するまちを目指します。

取り組み

- ・生物多様性の確保
- ・地産地消の推進
- ・地元農産物の購入
- ・都市と農村の交流推進



飯江川でウナギを放流

目標
2

Creating a Recycling-Oriented Society for Effective Use of Resources

資源を賢く使う循環型の社会づくり

「大量生産・大量消費・大量廃棄」型のライフスタイルを見直し、有限な資源の効率的な利用やリサイクルを進めることにより、資源の消費が抑制された循環型のまちを目指します。

取り組み

- ・ごみ減量化の推進
- ・ごみ分別の徹底
- ・生ごみ分別の普及 ⇒ 分別応援隊の結成
- ・ごみを出さない計画的な買い物
- ・ルフランの活用



目標
3

Development of Healthy, Comfortable Living Environments

健康で快適に暮らせる生活環境づくり

清らかな水、さわやかな空気の中で生活ができるよう、環境に負荷をかけない暮らしを心がけ、安全・安心で快適なまちを目指します。

取り組み

- ・公共交通機関の利便性向上
- ・空き家バンク制度の活用



コミュニティバス(くすっぴー号)



目標
5

Each Citizen Can Think about Environment and Take Action

市民一人ひとりが環境を考え行動する

持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（ESD）を推進し、様々な世代を対象とした環境学習を推進し、みんなが環境について考えるまちを目指します。

取り組み

- ・環境教育の推進
- ・市民協働によるまちづくりの推進
- ・環境について子供たちと共に学び拓げます

